

神奈川県川崎市

川崎市精神障害者地域移行・地域定着支援の取組

神奈川県川崎市では・・・

※川崎市では、H16年から、長期入院者への退院の意欲に向けた働きかけを行う部署を行政機関の中に設置し、そこを中心に地域の相談支援事業所と地域移行を進めてきました。平成24年度からの総合支援法の個別給付化に伴い、これまで以上に相談支援事業所と連携を図り、地域移行を進める必要があり、そのための人材育成研修の取組を平成25年度より開始しました。

1 神奈川県川崎市の基礎情報



取組内容

【人材育成の取り組み】

- 研修会
- 人材育成のための資料作成

【精神障害者の地域移行の取り組み】

- 地域移行・地域定着支援事業協議会の開催
- 事業説明会
- ピアサポーター養成講座の実施

基本情報

圏域数	1カ所
人口	1,472,853人
精神科病院の数	7病院
精神科病床数	1,758床
入院精神障害者数	3か月未満：470人（33%）
	3か月以上1年未満：320人（23%）
	1年以上：611人（44%）
退院率	入院後3か月時点：65.6%
	入院後1年時点：95.5%
相談支援事業所数	一般相談事業所数：54
	特定相談事業所数：680
障害福祉サービスの利用状況	地域移行支援サービス：8人
	地域定着支援サービス：1人
保健所	7カ所
(自立支援)協議会	(人材育成について議論)：〇〇専門部会 (活動頻度)：〇回/年
	(精神障害者の地域移行について議論)： 〇〇専門部会 (活動頻度)：〇回/年
精神保健福祉審議会	年2回開催

※H27年6月時点

川崎市における事業の体制（平成25～27年度）

	障害者総合支援法	国庫補助事業	市単独事業
事業内容	個別支援	協議会（年6回） 事業説明 普及啓発（資料作成） ピアサポーター活用	研修会 （年2回）
事業対象	入院患者 または退院患者	病院、 相談支援事業所他	主に 支援関係者
事業実施	地域相談支援事業所	生活訓練支援センターカシオペア	
	カシオペア （市外病院含む）		

2 人材育成の取り組みの経緯

- 1 普及啓発の促進（資料作成）
- 2 研修会の開催（平成25年度開始）

いずれも、事業に関わる支援者の事業理解を深め、個別支援を適切且つスムーズなものにするなど、事業の促進を図るために必要な人材育成の取り組みとして位置づけている。

1 普及啓発（資料作成）

年度 (平成)	作成物	
21	DVD	「私の一歩 ～川崎市地域移行支援特別対策事業のご紹介～」
23	パンフ	「川崎市地域移行支援特別対策事業 (旧退院促進事業)のご案内」
24	パンフ	「川崎市地域移行支援・地域定着支援事業のご案内」 (当事者・支援者向)
25	パンフ	「川崎市地域移行支援・地域定着支援事業のご案内」 (支援者向)
26	リーフレット	「かわさきピアサポート活動ガイドライン」
27	リーフレット	「精神障害者の地域移行・地域定着支援事業事例集」

2 研修会

年度(平成)		研修内容	講師等
25	第1回	「地域移行・地域定着支援について学ぶ ～病院から地域へ～」	行政職員
	第2回	「精神障害者の基礎知識と 地域移行支援の実際をまなぶ」	県立保健福祉大学
26	第1回	「精神障害者の基礎知識と 地域生活支援について考える」	県立保健福祉大学
	第2回	「地域と医療の連携のコツ～精神障害者の 退院支援をすすめるために～」	県立保健福祉大学 病院,相談支援センター
	第3回	医療と福祉の連携研修会	サポートセンター きぬた
27	第1回	「ニューロングステイを生まないために！ (医療ができること、福祉ができること)」	千葉県海匠ネット ワーク
	第2回	「ニューロングステイを生まないために！ Vol.2 (民・官協働の地域づくりにむけて)」	千葉県海匠ネット ワーク
	第3回	「精神障害者の地域移行・地域定着支援と は・・・」	市内地域相談支援 センター職員

3 川崎市としての精神障害者の地域移行の取り組みの経緯

- 平成16年度 川崎市生活訓練支援センター・カシオペアが事業主体となり、「**精神障害者退院促進支援事業**」を開始
- 平成21年度 「**川崎市精神障害者地域移行支援特別対策事業**」となり、カシオペア内に地域体制整備コーディネーターと地域移行推進員が配置され「**地域移行支援特別対策協議会**」を開催
- 平成24年度 本事業は県費および国庫補助金による事業であったが、個別支援の部分が法定給付化され、地域の支援機関である相談支援事業所も実施主体となる
- 平成25年度 「**川崎市精神障害者地域移行・地域定着支援事業**」と名称変更。障害者相談支援センター再編され基幹型1ヶ所、地域型3ヶ所、計4ヶ所が委託相談支援センターとして各区に設置

<その他の地域移行支援の取り組み>

3 協議会の開催（平成16年度～）

地域移行支援に関わる情報提供と関係機関の連携強化を図るためのネットワーク会議（年6回）。

4 事業説明会の開催（平成18年度～）

主に精神科病院などの関係機関を対象に、当事者や支援関係者に対して事業を説明し、周知及び理解を図る。相談支援事業所など地域の社会資源を巻き込み、支援ネットワークの強化もねらった取り組みとなっている。

5 ピアサポートの活用等（平成18年度～）

養成講座（全6回）とフォローアップ研修を開催。事業説明会での体験談発表や個別支援等で事業協力。

3 協議会

年度 (平成)	内 容	参加者
23	カシオペアの支援内容報告	病院、事業所、行政機関
24	制度に関する情報共有、 各事業所の困難ケース討議	病院、事業所、行政機関、 ピアサポーター
25	地域移行支援初期・中期・後期・ 定着支援期に共通する課題確認	病院、事業所、行政機関、 ピアサポーター 3基幹相談支援センター
26	全体会で実績報告、分科会で地域 移行の課題を共有、討議	〃
27	全体会で実績報告、事例報告、 その後小グループで事例検討	病院、事業所、行政機関、 ピアサポーター

4 事業説明会

年度 (平成)	開催回数	対象
18	3回(2病院)	慢性期病棟スタッフ
19	2回(1病院)	長期入院患者
20	3回(1病院2機関)	入院患者、病院職員、生保職員、相談職員
21	3回(2病院1機関)	入院患者、病院職員、生保職員
22	5回(3病院2機関)	病院職員、生保職員、相談職員
23	6回(2病院1機関)	病院職員、生保職員、相談職員
24	2回(1機関)	生保職員
25	4回(4病院)	入院患者、病院職員
26	6回(5病院1機関)	入院患者、病院職員、相談職員
27	3回(3病院)	入院患者、病院職員

5 ピアサポートの活用等

(1) ピアサポーターの養成等（カシオペア主催）

○「ピアサポーター養成講座」（全6回）

年1回開催。10年間で約90名が修了。

○フォローアップ研修（半日）

年数回開催。活動に関する情報提供など。

○資料作成

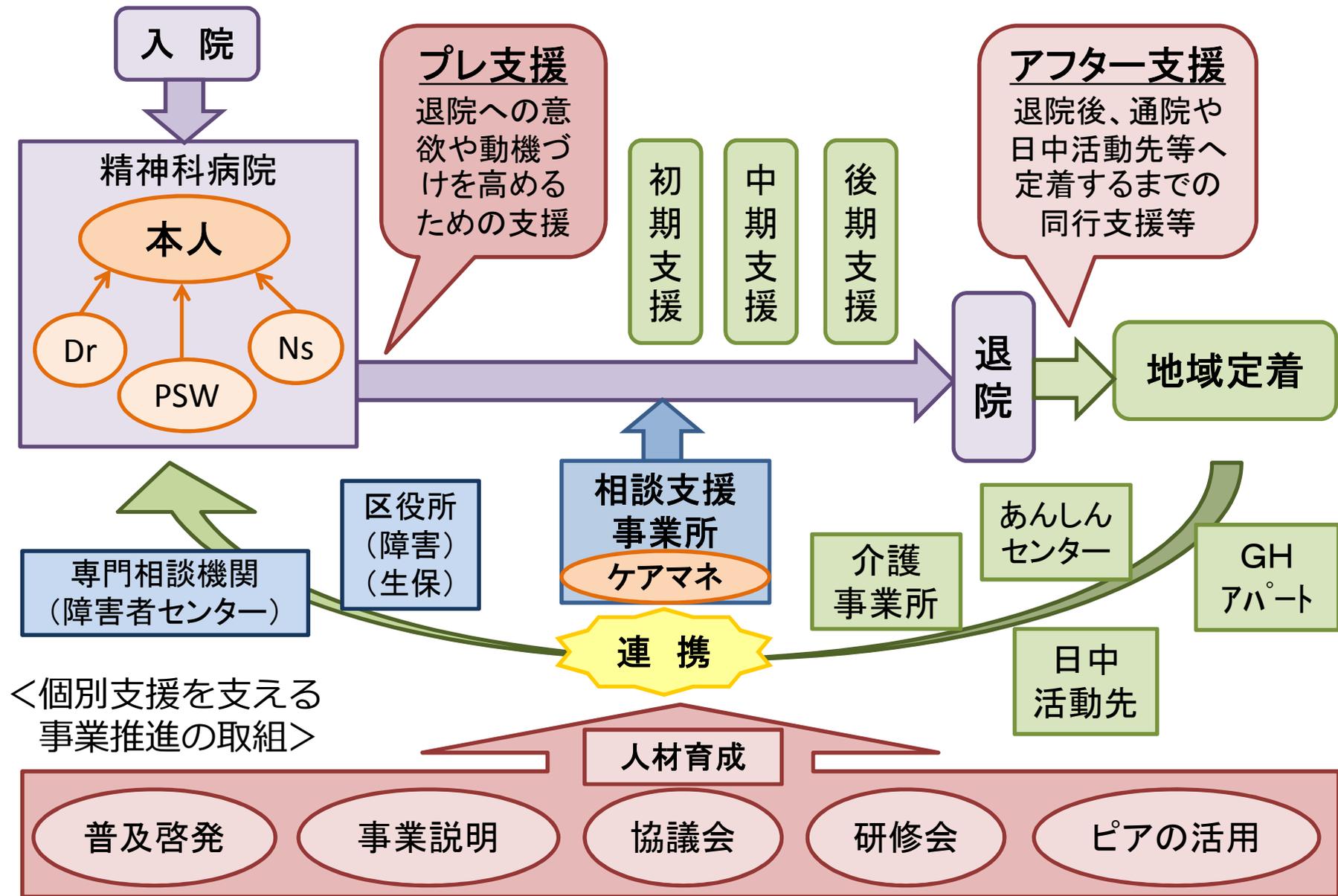
・「ピアサポーター相談の手引き」(平成22年度)

・「かわさきピアサポート活動ガイドライン」(平成26年度)

(2) ピアサポーターの活用

事業説明会での体験談発表や、個別支援で不安を抱える対象者に退院経験者として事業説明に協力。

地域移行・地域定着支援の体制と流れ



3-1 区の実組①

【高津区のとりにくみ】 ※高津区人口約22万8千（平成27年9月1日現在）

「自立支援協議会」の中で地域移行支援について説明

<内容>

- 地域移行・地域定着支援の背景にある社会的入院の問題について説明
- 地域移行支援を利用して退院した当事者から話を聞く
- 高津区にある精神科病院の紹介、見学（見学会の意義・目的の説明）

3-2 川崎市全体の取組

うちの自慢はココ！

「出会い」を大切に、
「プレ支援」でご本人のニーズやペースにあわせた丁寧な退院支援院。

「退院したくない」から
「退院してみようかな」
退院してみてもよかった！」へ
本人のペースであきらめずに。

協議会（ネットワーク会議）にピアサポーターが参加し貴重な意見をいただいています。

病院PSWが協議会（ネットワーク会議）に出席したり、事業説明に協力、病院との連携に力を入れています！

退院後も、支援員には、地域で「元気にやっている」との嬉しい報告の連絡をいただいています！

4 都道府県としての来年度への抱負

地域移行推進のための人材育成について

- 精神障害者地域移行・地域定着支援事業を実施する上での福祉関係機関と医療関係機関それぞれが感じている課題の見える化作業の実施

地域移行の推進について

- 精神障害者地域移行・地域定着支援協議会を川崎市自立支援協議会専門部会「精神障害者地域移行・地域定着支援部会」として位置づける。
↓
- 精神障害者の地域移行・地域定着支援に関する各種課題について、多様な関係者による具体的な取り組みをより一層促進する。

5 次年度の戦略

長期目標

- ・ 退院可能な長期入院者を0人にする。

短期（次年度）目標

- ・ 福祉関係機関と医療関係機関の連携見える化作業の実施

目標達成のためのスケジュール(いつ、だれが、何を、どのように実施するか)

時期		
H28年 4月 ～ H29年 3月	精神障害者地域 移行・地域定着 支援部会	①アンケート調査 福祉関係機関・医療関係機関それぞれに地域移行支援を進める上でわからない事、困ったことを出し合う。→課題抽出→課題への取り組み ②目標値を定めるための作業 退院可能な精神障害者は市内に何人いるのかチェックシートの作成→病院で調査→退院可能な精神障害者の人数を把握